令和５年４月１２日（水）
９：１０～１０：４０
川越町役場２階　大会議室

令和５年度　川越町総合教育会議議事録

●会議参加者
城田町長　寺本教育長職務代理（T）　寺本委員（K）　嶋委員（S）　早川委員（H）
稲垣教育長　　（事務局：学校教育課 課長・主監・課長補佐、生涯学習課 課長）

１．開会

２．町長あいさつ

新型コロナウイルスで３年間交流ができなかった。５月８日に５類となる予定で、これからは、学校の皆さんとかかわっていけるようになる。今後、学校のために、私たちにできることをしっかりやっていきたい。今日は、「目指す学校の姿」、「子どもの姿」を聞かせてほしい。本日は教育委員さん、校長先生、教育課の職員がいますが、校長先生から熱い思いを聞かせていただき、今後もこの会議を大切な会議として進めていきたい。

３．協議事項

（１）各校の「学校づくりビジョン」について　（各校長より）

＜川越南小学校＞

令和５年度の学校づくりビジョンについて。平成３０年度、令和元年度に南小学校の教頭をしていたが、その当時の学校長が、確かな学力を最重要課題とした。継続が大切であり、これは今でも変わっていない。

今年度は、「書く・話す」を最重要と考えている。前・前任の学校長が、「パッと答えられるビジョンにしていきたい」として、令和２年度より「一生懸命頑張る子」「いじめを許さない学校」とした。その後、令和４年度に、学校教育目標に「豊かな心」が含まれるようになった。

私も教育委員会でお世話になっているときに、豊かな心の重要性について理解をしている。川越南小の現状には、「豊かな心」が合っていると思っている。そのため、令和５年度は、昨年度のものを継続していく。一年経っていく中で、少しずつ変えていきたいと思っている。

始業式では、目指す子どもの姿を「一生懸命頑張る子」、目指す学校の姿は、「いじめを許さない学校」として確認ができた。入学式でも「一生懸命頑張る子」「優しい人になる子」として一年生の子どもたちに伝えた。学校、保護者、地域の方、みんなで作るものを、学校教育ビジョンを生かして取り組んでいきたい。

校長として、豊かな心を育むために重要視していくことは、職場の環境を整えながらの職員の育成である。働く人のモチベーションを上げることで、子どもたちへより良いかかわりをしたりしながら、教員の授業力が向上するなど、積極的で前向きな姿につなげていきたい。

教職員が、安心して働きながら、自分自身を向上させたり、自身の資質を上げたりすることで、信頼関係を築いていきたい。

川越町からは、多くの施策を行ってもらっているが、学力向上アドバイザー、特別支援教育スーパーバイザーは、教職員の資質・向上に大きくつながるものである。ただ、どのような対応で学校に入ってもらうのかは、今後考えていかなければいけないと思う。ＡＬＴの常勤の配置　英検の受講費の補助などの活用が必要だと思う。

家庭的に厳しい子が、就学援助の制度があるにも関わらず、活用しきれていない現状がある。これから自分の行政の経験を活かして、ポレポレや子ども家庭課などを活用し、子どもたちが安心して過ごしていける学校づくりに励んでいきたい。

＜川越北小学校＞

学校づくりビジョンは、今年は中身を大幅に変更した。教職員みんなで作りたいという思いもあり、昨年度末に各部長などに集まってもらい、中身の精選を行った。大きくは、６つの大きな重点と、それに向けての取り組みである。

①「確かな学力の向上」は、授業力の向上がポイントである。年間を通じて授業研究を行う。指導主事を招聘しての、一人１回の公開授業を行い、子ども同士の学びあいの活動をメインに行う。また教師間の授業の交流や、お互いに授業を見合っての活動を行いながら、授業力を高めていきたい。ICT は、たくさん使用するようになってきた。ただ、アナログ的な活動の良さも見えてきた。弱点は、学力の弱い子どもたちが、弱いままになっている子もいる。絶対にできないままにしない、答え合わせを大事にするなどを行う。学習の習慣、メディアを使いすぎる子どもたちも多いため、啓発を考えている。

②「心の教育の充実」は、いじめのない学校がポイントである。昨年度、大きないじめが本校であった。集団で厳しい状況を作ってしまった。子どもたちが、誰かを喜ばせたりする体験を行いながら、大きく成長させていきたい。

また本校の課題である「挨拶」には「会釈」を付け加えた。挨拶は、校内ではできるのだが、登校時や地域の人たちには、挨拶ができない。そこで、自分から頭をさげるような「会釈」を付け加え、挨拶や会釈ができる子どもたちを育てていきたい。

③「健康・安全教育の推進」では、運動好きな子どもを育てていくことにチャレンジしていきたい。そのために、体育の授業の内容を充実させていきたい。

学校内外の安全意識では、登下校についてがポイントである。登下校中に起こったことを解決していくために全校集会を行いながら、時間をかけて指導を行った。

子どもたちが、「自ら良いか悪いかの判断ができるようになること」、「お互いに注意ができる自分たちになること」を目指していく。

④「特別支援教育の推進」では、特別な支援が必要な児童への理解を示していきたい。支援学級の子どもたちが、交流学級の子どもたちとどのようにかかわりを持たせるのかが、明らかでなかった。これを重要視していきたい。

⑤「地域とともにある学校づくりの推進」では、様々な行事を行う中で、コロナ前に戻りつつ、様々な行事を行いながら、地域と連携を重ねていきたい。

⑥「教職員の資質向上と健康管理」では、一番にチームの中で取り組んでいきたい。そこで、必要であるのが、職場の雰囲気である。SOS が出しやすい職場を目指す。ヘルプに対してすぐに駆け付ける職場、あったかい職場を目指していきたい。

働き方改革においては、教職員の意識は変化してきた。今後も休みやすい職場づくりを目指していきたい。

今年度、１５人の教職員が新しくみえた。新規採用は３人。一人ひとりの先生方の意欲はすごいと思う。

登校が心配だった子どもたちは、登校ができるようになってきている。今後も安心して登校できる学校を目指していく。みんなが「いろいろあるけど、何とかなるわ。」という言える子どもたちを育てていきたい。

＜川越中学校＞

学校教育目標は、「自立した生徒の育成」である。求める生徒像、学校づくり像は、「自分・他者を大切にする」、「粘り強くやりきる」、「人を大切にする」「安全・安心」「地域や保護者とともにある」である。かかわることを通して、人権が大切にされる学校を作っていきたい。

ただ、チームとしての動きはまだ課題がある。かかわりながら、教職員同士の人権も大切にされることを柱にしていきたい。

昨年度より、「わかる・できたと思える授業」「生徒に寄り添う生徒理解の充実」「認め合う・支え合う環境づくり」「子どもが主体となる自治活動」「心とからだの健康」と、温かさを持った文言にすることで、見てもらう人に伝わりやすいように変更した。

ICT 機器の活用について、子どもたちが、タブレットを持ち歩く・活用することが日常になってきた。教職員も、様々な場面でタブレットの使用を日常化できるようになってきた。ただ、家庭学習の定着については課題であり、現在もチームを作って対応している。

また、生徒理解・教育相談は、日常的に行っている。

他にも、室長会、班長会を充実させて、自治活動を行いながら、子どもたちを育てていきたい。

今後、部活動は地域移行に変化していく。心と体の育成のため、昨年から力を入れている食教育を実施していく。また、防災、LGBT 理解　性教育、命の大切さを考える講演会や取り組みなどを続けて行っていく。

他にも、読書活動の推進や授業においての活用。「ぽれぽれ」や「専門家チーム」について、学ぶ機会をとり、理解を深めていきたい。

これからは、生徒、保護者にかかわる力などの教師力の向上を目指していく。教師力の向上では、今年度は分掌の長をすべて入れ替えた。先生たちが自ら考え、動いていける学校づくりを進めていきたい。コンプライアンスに関する事象が起こっても、自分たちの力で話し合って解決していく力の向上を　同僚性の中で高めていきたい。

学校ビジョンについては、学校だよりの中で、子どもたちや家庭へ伝えていきたい。またクラスづくりを通して、安心・安全な学校づくりに励んでいきたい。そこで４月１日から始まったヘルメットの努力義務を伝えていきたい。

川越中学校は、先輩の姿から学べる学校を目指す。良い伝統を受け継いでいきたい。これからも先生たちと、よく話しながら進めていきたい。

【質疑応答】

(T)　：　感想を話したい。各校長先生がビジョンに新しい項目を入れていただき、より学校をよくしたい気持ちが伝わってきた。現在は、コロナも下火になってきた。これから平常に戻っていくが、学校の行事などを通して、思いやりや責任感などを育む活動など、これまでできなかったことを通して、活気のある学校づくりを進めてほしい。豊かな心の育成を達成するためには、職員の育成は大切である。先生たちが心豊かになっていかないとだめである。若手が多い学校もあり、無理をして倒れる先生たちもいるので、先生たちが会話を通しながら、校長・教頭・経験豊富な先生たちが、若手の先生たちにアドバイスをしていってもらえればと思う。

保護者、地域の人たちから、「学力は大丈夫ですか」と聞かれることがある。そんなときは「学校は一生懸命やっている」と伝えている。家庭学習は充実してきたというが、まだまだ課題も多い。学び続ける子どもに育てていくには、家庭学習はどんなことをすればよいのか基礎基本も大事であるが、自主学習の意味が分かっていない子もいる。うまく誉めたり、みんなの前で紹介したりしながら広めていってほしい。

人権教育について。いじめの対応については、これまでもずっと続けてもらっているので、これからも重ねていってほしい。「おはよう」と進んで言える子どもを育てたい。よろしくお願いしたい。

(T)　：学校としてどのようにチェックしているのか

北小：活動内容はチェックしているが、どこまで進んでいるのかを運営委員会で報告しながら、把握を行っていく。掲げただけではだめなので。

南小：掲げていくが、学期ごとか年度末には必ずチェックが必要となってくる。
学校アンケートを活用していきたい。

川中：学校アンケートは１１月に実施。１学期の公開授業の際に、保護者の方の声を聞く機会を取る。

(K)　：　学校教育ビジョンは、学校現場から作っていくものであってほしい。生徒の気持ちを汲んでホームいページなども載せてもらっているが、生徒の気持ちの移り変わりや考え、疑問などを大切にしてこれからも取り組んでほしい。生徒主体の川越中学校であってほしい。

(K)　：ビジョンの表現の仕方は統一することはできないのか。

南小　：アンケートは大分揃えてきたと思うが、校長先生の色が各校で出てくると思うので、統一することは難しいと思う。

教育長　：校長先生の意欲を前面に出していただき、お考えを大切にしていきたい。

(T)　：ビジョンは統一をせずに、先頭に立ってやっていってもらいたい。

ＩＣＴの活用はどうなっているのか。

川中　：ICT をどのように使用するのかが大切である。川越町でもタブレットを持ち帰るようになり、家庭学習でも ICT を使えるようになることが大切である。今、中学校では、下校の前に１０分間の学習を行っている。そのうちの１週間に一度か二度はタブレットを使って学習を行っている。授業以外のところでも、自主学習的にタブレットが活用できるように進めていきたい。

(T)　：書く力は育ってきているのか。

南小　：タブレットに予定帳を載せると、これからは予定を自ら書く必要が無くなってくる。ただ低学年の先生からは、「子どもたちがしっかりと自分で予定を書いて、それを見て準備をする経験が大切だ」と話しており、私もそのとおりであると思う。タブレットを使用していても、「自分で書く」ことは授業の中に入れ込んでいきたい。

(K)　：アクティブラーニング的なものは。授業中にやるものか、家庭でもできるものなのか

川中　：学校では、ジャムボードを使用している。昔で言えば、グループになり、みんなでホワイトボードに意見を書きこんでいた。ジャムボードは、タブレットに各自で書き込み、みんなの意見を共有することができる。書く力は大切であり、手法重視になってはいけない。タブレットを使用しての自主学習に特化してやっていきたい。

南小　：タブレットのミライシードでは、クイズ形式などで個人で学習を進めやすいが、これだけでは力がついていかないことになる。これはあくまで補足的に使う。学年に応じて、課題として使うことが大切である。

(T)　：授業でノートは書かせているのか。

川中　：ノートは使用している。

(T)　：電子教科書は活用しているのか。

北小　：活用している。算数や英語などコンテンツを使う良さがある。図形なども学習に使用できる。「書く」「話す」は丁寧に学習を進めていけば、必ず力が付いていく。意見交換など実施をしやすいが、言葉で話すことが大切である。書き込みだけでなく、それを基にしたディベートが重要である。

(S)　：これからは「自分で考え、アウトプットする力」が大切である。書く・話すことがとても大切になってくる。ただ失敗してもよい、言いやすい環境が大切であると思う。
自分の子どもが小・中とお世話になって、子どもに将来のビジョンを持たせたいと思う。子どもが「こんな職業に就きたい」と思うことも大切である。またどんな大人になりたいのかと思うことも重要。周りの人たちが、「誉める」、「こんな力を伸ばせるといいね」、など、私たち大人が少しずつヒントをあげながら、前に進んでいってほしい。また「失敗をしても大丈夫だよ」と声をかけてあげたり、「いろいろあるけど、なんとかなる」も大切。「どんな仕事に就いても、社会を作ることになる」といったことを教えてあげたい。

教育長　：学校教育ビジョンについては、「非認知能力を高める」「個性を大切にする」などを大切に進めていくことで、子どもたちの「豊かな心」の育成につながっていくと思う。「言行一致」すなわち「口で言うことと行動が矛盾しないようにする」ことや、「児童生徒は先生の鏡」すなわち「先生方が子どもたちの手本となること」、この２つを念頭に、豊かな心が子どもたちに育っていくような教育をお願いしたい.
また、学力調査についても文書で用意をした。今の学力調査は、統計資料等を活用して、考える力をつけていくものになっている。これらを子どもたちのやる気につなげてもらって、

授業や家庭学習につながればよいと思う。子どもたちに詰め込むのではなく、子どもたちの力を引き出すことができるよう、よろしくお願いしたい。

(S)　：川越町はメールで欠席連絡を行うことはできるのか。保護者の負担が軽減されるのではないか。

事務局：現在は、すぐーるで対応を行っている。今後、便利な機能が付いていて、より使用しやすいものを検討をしている。

町長　：校長先生の熱い思いが伝わってきたこと、教育委員さん方の質疑、連絡システムは、補正をつけてでも早くやってほしい。行政として応援したい。
川越町は、教育に対しては、上をいっていると思っているし、様々な事業を行う中で、公平に子どもたちに与え、やる気のある幅を広く持ってやっていただきたい。行政の弱点として、ただやっているだけではだめで、中身の充実、これから事業の評価をしてもらって、あかんものはカットをしていき、他の事業に回したほうが良いと思っている。教育に対しては、これから子どもたちをしっかりと育てていってもらわないといけない思いがあり、子どもたちには平等を、やる気のある人はより頑張ってほしい。畑に種をまく人、そして大きくしていくには、自分たちと思っている。何かに気持ちが向いてもらいたいという思いを持っている。先生方にははっぱをかけているが、その代わりにしっかりと予算をつけさせてもらう。私は行政として、子どもたちにしっかりと予算をつけますので、しっかりとした子どもたちを育ててほしい。
　今までの中で、本当に良い会議となった。改めて、「皆さんにお任せしたい」と思いましたので、よろしくお願いします。

４．連絡・その他

特になし

（以上）